

(様式第 1 号別紙 1－1)

介護職員養成研修課程カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

令和 7 月 7 月 1 日～

科(科目)名	内 容	実施計画	科目番号
(1)職務の理解 (6 時間)	① 多様なサービスの理解	○介護保険サービス（居宅、施設） ○介護保険外サービス ○インフォーマルサービスの理解	(1)－①
	②介護職の仕事内容や働く現場の理解	○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ○ケアプラン位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の流れとチームアプローチ・多職種連携、地域の社会資源との連携	(1)－②
(2)介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)	① 人権と尊厳を支える介護	○人権と尊厳の保持 ① 個人としての尊重 ② 尊厳の保持と介護サービス ③ 権利擁護 ④ 尊厳のある暮らし ⑤ エンパワメントの視点 ⑥ プライバシーの保護 ○ I C F について ① 介護と I C F ○ Q O L ① 生活の質 ○ノーマライゼーションの考え方 ○虐待防止・身体拘束禁止 ② 身体拘束の禁止、高齢者虐待防止法 ③ 個人情報保護法 ④ 障害者虐待防止法	(2)－①
	② 自立に向けた介護	○自立支援 ① 自立と自律支援 ② 残存能力の活用 ③ 自己選択、自己決定 ④ 個別ケア ⑤ 意欲を引き出す支援 ○介護予防の考え方 ②廃用症候群・生活習慣病	(2)－②
(3)介護の基本 (6 時間)	①介護職の役割、専門性と多職種との連携	○介護環境の特徴の理解 ① 介護サービスの種類 ② 訪問介護と施設介護の違い ③ 地域包括ケア ○介護の専門性 ①自立支援・介護予防・重度化防止の視点 ②利用者主体の支援姿勢 ③自立した生活を支える為の援助 ④根拠のある介護 ⑤チームケアの重要 ○介護実践における連携	(3)－①

		①異なる専門性を持つ多職種の理解 ②介護福祉士 ③介護支援専門員 互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ④チームケアにおける役割分担	
	②介護職の職業倫理	○専門職の倫理の意義 ①介護職の職業倫理の重要性 ②介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等） ③介護職としての社会的責任 ④プライバシーの保護・尊重	(3)－②
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント	○介護における安全の確保 ①事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ②リスクとハザード ○事故予防、安全対策 ①リスクマネジメント ②分析の手法と視点 ③事故発生時の対応・報告 ○感染対策（ ①感染の原因と経路、対策 ②感染に対する正しい知識	(3)－③
	④介護職の安全	○介護職の健康管理 ①ストレスマネジメント ②介護職の腰痛対策 ③手洗い。うがいの励行 ④防護用品の着用	(3)－④
(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	① 介護保険制度	○介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ①介護保険制度の背景 ②予防重視型システムへの転換 ③地域包括支援センターの設置 ④地域包括システムの推進 ○介護保険制度のしくみの基礎的理解 ①介護保険制度の基本的仕組み ②介護給付と種類 ③予防給付 ④保険給付までの流れ ○制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 ①介護保険に財源構成 ②サービス提供事業者の指定 ③国民健康保険団体連合会	(4)－①
	②医療との連携とリハビリテーション	○医行為と介護 ○訪問看護 ○看護と介護の役割と連携 ○リハビリテーションの理念	(4)－②
	③障害者福祉制度およびその他制度	○障害者福祉制度の理念 ①障害の概念 ②ICF（国際生活機能分類） ○障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 ①自立支援給付と地域生活支援事業 ②サービス利用の流れ ○個人の権利を守る制度の概要 ①個人情報保護法 ②成年後見人制度	(4)－③

		③日常生活自立支援事業	
(5) 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)	①介護におけるコミュニケーション	○介護におけるコミュニケーションの意義、役割、目的 ①相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ②傾聴 ③共感 ○介護におけるコミュニケーションの手段、技法 ①言語的コミュニケーション ②非言語的コミュニケーション ○利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ①利用者に対する気づき ②意欲低下の要因を考える ③利用者の感情への共感 ④利用者の自立の支援 ⑤家族とのコミュニケーション ⑥信頼関係の形成 ⑦自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ⑧ニーズとデマンドの把握の把握 ○利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ①視覚、聴覚の障害に応じたコミュニケーション技術 ②失語症に応じたコミュニケーション技術 ③構音障害に応じたコミュニケーション技術 ④認知症の応じたコミュニケーション技術	(5)－①
	②介護におけるチームのコミュニケーション	○介護におけるチームコミュニケーションの重要性 ①介護におけるチーム ②連携、協働するためのコミュニケーション力 ○記録における情報の共有化 ①介護における記録の意義、目的 ②介護に関する記録の種類 ③個別援助計画書 ④ヒヤリハット・事故報告書 ⑤5W1Hを意識して書く ⑥個人情報の保護と管理 ○チームコミュニケーションを促す報告・連絡・相談 ①報告。連絡、相談の意義 ○チームコミュニケーションを促す環境 ①カンファレンス（会議）の意義 ②情報共有 ③役割認識 ④ケアカンファレンスの重要性 ⑤会議の議事録	(5)－②
(6) 老化の理解 (6 時間)	①老化に伴うこころとからだの変化と日常	○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ①喪失体験 ②防衛機能の変化 ○老化に伴う心身の機能に変化と日常生活への影響 ①身体機能の変化と日常生活に与える影響 ②老化に伴う身体機能の変化	(6)－①

		③咀嚼、嚥下機能の変化 ④運動器系の変化 ⑤体温維持機能の変化 ⑦老化に伴う記憶機能、認知機能の変化	
	② 高齢者と健康	○高齢者の疾病と生活上の留意点 ①高齢者の症状・疾患の特徴 ②小さな変化に気づく視点 ③廃用症候群 ④骨折 ⑤関節疾患 ○高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ①生活習慣病 ②循環器障害 ③循環器障害の危険因子と対策 ④脳血管疾患 ④老年期うつ病 ⑤誤嚥性肺炎 ⑥感染症	(6)－②
(7) 認知症の理解 (6 時間)	① 認知症を取り巻く状況	○認知症ケアの背景と基本的視点 ①パーソンセンタードケア ②認知症ケアの視点（その人らしさの尊重）	(7)－①
	②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理 ①認知症の定義 ②物忘れとの違い ③せん妄の症状 ④認知症の原因疾患とその病態 ⑤健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア） ⑥認知症の治療 ⑦薬物療法と非薬物療法 ⑧認知症の予防	(7)－②
	③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	○認知症の人の生活障害 ①中核症状・周辺症状（BPSD） ②不適切ケア ③生活環境の意義とあり方 ○認知症の利用者への対応 ①認知症利用者の理解 ②認知症利用者とのコミュニケーション ③認知症の進行に合わせたケア	(7)－③
	④家族への支援	○認知症受容課程での援助 ○介護負担の軽減（レスパイトケア）	(7)－④
(8) 障害の理解 (3 時間)	① 障害の基礎的理解	○障害の概念と I C F ① I C F の考え形 ② I C F を構成する六つの要素 ○障害者福祉の基礎理念 ①ノーマライゼーションの概念	(8)－①
	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	○身体障害 ① 視覚障害 ② 聴覚・平衡障害 ③ 言語障害・音声障害・咀嚼障害 ④ 肢体不自由	(8)－②

		⑤ 内部障害 ○知的障害 ○精神障害 ① 統合失調症 ② 気分障害 ③ 発達障害 ④ 高次機能障害 ⑤ 難病 ○その他の心理の機能障害	
	③家族の心理、かかわり支援の理解	○障害の理解。障害の受容支援 ○介護負担の軽減	(8)－③
(9) ところとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	【ア 基本知識の学習 (10～13 時間)】		
	① 介護の基本的な考え方	○理論に基づく介護 ○法的根拠に基づく介護	(9)－①
	②介護に関するところのしくみの基礎的理解	○学習と記憶の基礎知識 ○感情と意欲の基礎知識 ○自己概念と生きがい ○老化や障害の不適応状態と緩和する心理	(9)－②
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	○人体の各部の名称に関する基礎知識 ○骨・関節・筋と動きに関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ○中枢神経に関する知識 ○自律神経と感覚器、内部器官に関する基礎知識 ○生命の維持・恒常のしくみ	(9)－③
	【イ 生活支援技術の講義・演習 (50～55 時間)】		
	④生活と家事	○家事と生活の理解 ① 家事援助の意味と基本原則 ② 自立支援 ○家事援助の関する基礎知識と生活支援 ① 生活歴 ② 利用者が主体的に取り組める工夫	(9)－④
	⑤快適な居住環境整備と介護	○快適な居住環境に関する基礎知識 ① 家庭内に多い事故 ○高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ① バリアフリー ② 住宅改修 ③ 福祉用具の活用	(9)－⑤
	⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	○整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ① 身体状況に合わせた衣類の選択・着脱 ② 身支度 ③ 整容行動 ④ 衣服着脱の介助	(9)－⑥
	⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	○移動・移乗に関する基礎知識 ① 移動・移乗の目的 ② 移動・移乗の介助を行うときの考え方 ③ ボディメカニクス ○利用者・介助者にとっての負担の少ない移動・移乗の支援	(9)－⑦

		① 体位変換 ② 移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗方法、全介助でのベッド、車いすへの移乗、全介助での車いすからのトイレの移乗） ③ 移動介助（車いす、歩行、杖等） ○褥瘡予防	
	⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	○食事に関する基礎知識、 ① 食事の意義と目的 ② 食事に関連したところとからだのしくみ ○食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用法 ① 食事の環境整備 ② 食事に適した姿勢 ③ 食事に関連した福祉用具の活用と介助方法 ○食事形態とからだのしくみ ① 誤嚥性肺炎の予防 ② 低栄養の予防と改善 ③ 脱水の予防と改善 ④ 口腔ケア ○楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 ① 精神機能の低下による食欲不振 ② 身体機能の低下と食事と与える影響	(9)－⑧
	⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	○入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ① 入浴・清潔保持の意義 ② 羞恥心への配慮 ③ 体調の確認 ④ 入浴の際の留意点 ○清潔保持の方法と福祉用具の活用 ① 入浴介助 ② 清拭の方法 ③ 陰部洗浄 ○快適な入浴を阻害する要因の理解と支援方法 ① 認知機能低下による入浴・英傑保持への影響 ② 身体機能の低下による入浴・清潔保持への影響	(9)－⑨
	⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	○排泄に関する基礎知識 ① 排泄とは ② 羞恥心への配慮 ③ 排泄のメカニズム ○排泄環境の整備と関連する排泄用具の活用方法 ① 排泄介助のポイント ② トイレでの排泄介助 ③ 尿器、ポータブルトイレでの排泄介助 ④ おむつ交換の方法 ⑤ おむつ使用の弊害 ⑥ プライバシーの確保 ○爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 ① 消化機能低下による排便障害 ② 便秘の予防 ③ 身体機能の低下による排泄への影響	(9)－⑩

	⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	○休息・睡眠に関する基礎知識 ○環境の整備と用具の活用方法 ○快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法	(9)－⑪
	⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	○終末期に関する基礎知識 ① 臨終が近づいたときの兆候と介護 ② 終末期ケア ○生から死への課程 ① 高齢者の死に至る過程 ○苦痛の少ない死への支援 ① 終末期ケアでの介護 ② 多職種間の情報共有の必要性	(9)－⑫
	【ウ 生活支援技術演習 (10～12 時間)】		
	⑬介護過程の基礎的理解	○介護過程の目的・意義・展開 ○介護過程とチームアプローチ	(9)－⑬
(10) 振り返り (4 時間)	⑭総合生活支援技術演習	○演習事例をもとに介護過程を展開 ① 事例の提示 ② 課題分析 ③ 一連の生活支援を提供する流れの理解、検討 ④ 支援技術の習得 ⑤ 利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得、課題	(9)－⑭
	① 振り返り	○研修を修了して感じたこと、学んだこと ○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点	(10)－①
	②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	○介護職として成長するために大切なこと ○継続的な学習の必要性	(10)－②